

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和6年度第9回）議事概要  
日 時：令和6年12月20日（金）16：00～17：00  
場 所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用  
出席者：中釜斉理事長、大島正伸理事、平沼直人理事、山内英子理事  
本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、瀬戸中央病院長、土井東病院長

#### I. 前回（令和6年度第8回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を大島理事と小野監事に依頼。

#### II. 審議事項

##### 1. 研究セキュリティ・インテグリティの対応について

資料に沿って報告された。

###### 【主な意見等】

- ・R/S/・R/I について、安全保障輸出管理規程を各機関は設けているが、現在規程は制定されているか確認したい。
- 安全保障貿易管理の経産省のガイダンスや資料のチェックシートなどを使っているが、当センターの規程は作成していない。
- 国からの要求事項が規程等運用を定めることになっているため、当センターにおける該当事案の考え方からして運用で定めるということでチェックリスト等を作ってきた。規程という形では定めていないが、この R/S/・R/I の定義が進化しているの、今後他 NC と議論をしながら制定も視野に入れて、ディスカッションを進めていく。
- ネットで検索すると大抵のアカデミアでは管理規程について登場する。また、経産省でもアカデミアの種別に応じて丁寧に雛形ができていますので、その雛形を使えばそれほど困難ではない。その雛形によるとチェック機関をどの部署で行うかや、定期的な監査や調査が定められている。実態としては、いろいろな対応をしていると思うが、その規程という仕組みが元にあって具体的に対応していくことになるので、世の中の状況と合わせて検討してほしい。
- 当初、安全保障輸出に関して当センターは該当するものがないという認識もあったが、ご指摘のように適用範囲が広がっていることから規程についても検討していく。

##### 2. MIRAI Project 第2期 新規設置について

資料に沿って報告された。

###### 【主な意見等】

- ・第1期が終了したことに対する成果について、第1期の時に寄付をされた方が、がんセンターの何に貢献できたのか知りたいと思う。また、第2期に寄付をする人が第1期の時の成果があったことを知る上で、また第2期の寄付をしようという思いにも繋がってくる。その二点のことからも、第2期の寄付を募るところでわかるように、第1期の成果が見えるようにしたほうがよいと思う。
- 第1期の使途については確認している。
- 成果をホームページ等でしっかり見せていく点をご助言いただいたので、関係部署と調整をしていく。
- 第1期の時に上げた3つの使途について、その成果を着実に公表し考案を周知しながら、広域な範囲での医療機器や非医療機器の開発に向かうことを示してご理解いただきたいと思う。

#### III. 報告事項

#### 1. 組織改正について

資料に沿って報告された。

#### 2. 寄付関連規程・細則の改正について

資料に沿って報告された。

#### 3. 2024年度第3回適正経理管理室会議 議事概要

資料に沿って報告された。

##### 【主な意見等】

- ・特に家族を帯同する学会等への参加については、今後検討すること。
- ・家族同伴については引き続き検討していただけるとのことであるが、海外をみると家族の在り方は変化してきている。柔軟に考えていくべき。
- 昨今の世界的な情勢や財源との問題もあるが、日本としてもある程度グローバル基準も必要だと思う。

#### 4. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

##### 【主な意見等】

- ・第3期の健康・医療戦略では、出口を明確にした戦略が強く打ち出されたが、基礎研究の充実と研究基盤及び研究活動、人材強化についても書き込まれたというのは今回の特徴であり、厚労大臣もその点については触れていた。

#### 5. 広報実績等

資料に沿って報告された。

##### 【主な意見等】

- ・京都大学との共同研究に関しての報道について説明いただきたい。
- 京都大学と当センターの研究所が連携し、共同研究を開始するプレスリリースを本年7月に出した。その一環の中、来年4月に京都大学の研究機関部門が研究所の企業ラボに拠点を構えて、共同研究を行うという内容となっている。記事の中には、当センターの臨床研究の推進能力の高さなども記載いただいている。すでにプレスリリースを出した内容について取材をいただき、このタイミングで記事を出されたというものとなっている。
- 京都大学は新しい免疫療法、細胞療法の開発を進めているところであり、当センター研究所の試みと臨床開発の力が合体することによって、より早期に日本初の新しい細胞療法、免疫療法、治療薬の開発を進めていきたい。研究所と京都大学だけでなく、臨床部門、研究部門の先生方とも連携をしながら進めていく必要がある。全体のキャパシティにもよるが、センター全体で意思統一しながら進めていきたい。
- ・高額療養費について、がん治療で高額になっていることで費用を心配される方が大変多くいる。特に女性や若い段階でがんになる方も多いため、医師から説明できないことでも相談支援センターに繋ぎ、社会福祉制度で使えるものがないかなど、一緒に検討していただけるようにしてほしい。
- 中央病院では、サポートセンターの中で、就労支援など行っているため、その一環として、患者にも丁寧に説明していく。
- 東病院では、当院に来院した段階でサポータティブケアセンターから利用できる社会的な財源についての説明をしている。また、高額に医療費が生じる治療に関しては金額についても説明をしている。
- 全国に相談支援ネットの電話対応はあると思うので、その点についての対応もぜひお願いしたい。

- 当センターについては、患者サポートセンターで患者さんからの相談支援を受ける割合が非常に多い状況である。また、全国のがん関連医療機関である、がん診療連携拠点病院に関しては、その中のがん相談支援部会でも相談支援センターの存在そのものの認知度や体制が十分とは言えない点もあるので、今のご指摘の点を含めて課題共有していければと思う。

## 6. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

## 7. 11月分医業件数等

資料に沿って報告された。

### 【主な意見等】

- 年度決算に関して今年度は、給与改正の影響がかなり大きいということと、支出をいかに抑えると同時に収益を増やすことについての検討も改めて必要である。当センターの中長期目標、両病院の建て替えを含めて計画に反映する必要がある。
- 医業外収支がマイナスの4億円の見込みだが、去年の実績はプラス、一昨年はかなりマイナスだったが、医業外がこれだけ増減する要因はなにか。
  - 柏の医業外収益の治験及びそれと公的研究費の獲得について、前年度に比べてかなり伸びている。支出の部分のどの部分がどこまで上がったかについては分析が必要である。
  - 治験が伸びている話もいただいているが、AMED、共同研究費については、思った以上に収益が上がっていない。
  - 土井東病院長の指摘にあった治験収入が増えているとすると、この見込みの数字がもう少し増えてもいいと思う。
  - AMEDの資金の獲得は両キャンパスともかなり伸びていた記憶である。
  - 研究収益について、10月までの実績値を反映している。昨年10月までの分と今年度の10月までの分を比較すると、7億円程収益が減少している。例えば、医師主導治験が昨年7億円程計上されていたが、今年度はそこまで伸びてないのも一つの要因である。東病院については、昨年と今年の10月ベースで考えると大体1.4億円程のプラスであるが、中央病院については、7億円程少ない。
  - おそらく医師主導治験は企業から入っている希少がんに対してのものである。その部分については、波があり新薬が出てくれば適用拡大でまた増えてくる部分があると思っている。期間を少し長めで見ていただきたい。
  - 研究収益に関しては、年度の後半の方で変動するケースが多いので、そのあたりを見据えながら検討していく。